

1 課題選定

(1) 豊南地域の課題選定

令和6年4月から第10期の豊南地域会議が始まりました。
豊南地域の現状や感じている課題について意見を出し合いました。



【出てきた意見】

- こどもを気軽に預けられる場所が少ない
- 放課後や休日に安心して遊べる場所が不足している
- 高齢者の移動手段が限られており、外出機会が減少
- 独居高齢者の増加や空き家問題
- 地域活動の担い手不足（特に若い世代の地域活動への不参加）
- 通学路や生活道路の安全性への不安

☞ 「こども」、「高齢化」、「地域のつながり」に関する意見が多く出てきました。

(2) 目指す地域の姿の検討

課題を踏まえ、地域の理想像について検討しました。

- 世代を超えて気軽に交流できるまち
- 高齢者もこどもも安心して外出・活動できる環境
- 日常から助け合える関係性がある地域
- 災害時にも支え合えるつながり
- 誰もが無理なく関われる地域活動

☞ 「交流・助け合い・安心」がキーワードになりました。

(3) テーマの決定

何度も協議をした結果、今後豊南地域会議で検討していくべきテーマは
「こどもと高齢者の居場所づくり」に決定しました。

このテーマを深め事業に移すことが出来たら

- こども・高齢者双方の課題を同時に解決できる
- 高齢者の生きがいづくりと、こどもの見守りを両立できる
- 世代間交流により地域のつながり強化につながる

と考えました。

2 具体化に向けた取組

(1) テーマ実現に向け、具体的な検討を開始しました。まずは、ニーズ把握をするために

- 関係機関との意見交換会
- アンケート（紙・QR・学校・回覧等）
- 豊南地区居場所マップの作成



を行い、幅広い世代（こども・保護者・高齢者）、専門家から意見を聞きました。

① 関係機関との意見交換会

市こども・若者政策課、社会福祉協議会共生推進課、地域包括ケアセンターの職員の方々と意見交換会を行いました。検討中の仕組みへのアドバイス等をいただきました。

- 「預ける（責任あり）」と「見守る」は捉え方が変わってくるので明確に区別が必要
- 保護者のニーズと地域側の提供内容にズレがあると利用されない
- 高齢者が参加するためには「移動手段」と「役割づくり」が重要
- 一つの形にこだわらず、多様な居場所の併存が望ましい



② アンケート（ニーズ調査）の実施・・・別紙1

こどもを見守ってもらう側（親子向け）とこどもを見守る側（地域の大人向け）の2つのアンケートを豊南地区の回覧及び市内小学校に通うこどもに配布しました。

その結果、

- 保護者側：あったら便利という回答は多かったが、利用したいかどうかについての質問に対しては「どちらとも言えない」の回答が多い
- 見守る側：興味関心はあるが実際の参加には負担や不安がある
- 双方の希望する時間帯のミスマッチ

予想していたよりもニーズが少ないことや双方の希望時間帯のミスマッチから実現可能性についての課題が出てきました。

4 今後の方向性

(1) アンケートの分析結果を踏まえ、以下の考え方に整理しました。

- いきなり大規模に始めない（スモールスタート）
- ピンポイントのニーズに対応するような仕組みを考える
- 全てを網羅するのではなく、現状の制度のすきまを埋める仕組みを考える
- 区民会館等の既存施設を活用する
- 無理のない範囲で継続できる仕組みにする



(2) 検討した事業案・・・別紙2

▶ 平日午後型

- 学校の早帰り日など下校時間がイレギュラーな日に対応
- 学童は利用しないが、一時的に預けたいというニーズに対応

▶ 長期休業型

- 春休み・夏休みなどに限定して実施（☞平日でも実施ができる）
- 受け入れは既に活動している自主グループや高齢者クラブで行う

▶ 夏休み集中型

- 区民会館等で宿題や交流の場を提供する
- 既存の地域活動を参考に実施

☞ 前提として

- ニーズに応じた柔軟な居場所づくり（あくまで選択肢を増やすという目的で）
- 見守る側の負担軽減と仕組みづくり
- 無理のない範囲で、多世代が関われる運営体制の構築

5 まとめ

2年間の検討事項をもとに、こどもと大人がつながり、持続可能な地域の支え合いの仕組みづくりを目指し、来年度以降も検討を続けていきます。

